

旅行取扱状況の概観（平成27年7月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比63.0%と前年を下回り、学生団体は同107.8%と前年を大きく上回ったが、団体旅行合計で同69.7%と前年を下回った。企画旅行については同98.3%、個人旅行についても前年比77.8%と前年を下回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比85.6%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比108.6%と大きく上回ったが、学生団体は同98.6%と前年をやや下回り、団体旅行合計で同103.3%と前年を上回った。企画旅行については同97.5%と前年を下回り、個人旅行については同100.3%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、99.1%と前年をやや下回った。

外国人旅行は、前年比142.4%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の7月の総取扱額は前年比95.4%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は前年の大型イベントの影響で前年比62.3%と前年を下回ったが、学生団体は、修学旅行の取扱い校数の増加に伴い同107.8%と前年を大きく上回った。この結果、海外団体旅行合計では同69.2%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は大型の職場旅行や親睦旅行を取扱い、前年比108.6%と大きく上回った。学生団体は大型の研修や合宿の取扱いは増加したものの、修学旅行の取扱い団体本数の減少に伴い前年比98.6%と下回ったが、国内団体旅行合計では前年比103.3%と上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比99.9%と前年並みであった。方面別取扱人数の状況では、北陸新幹線の影響もあり、北陸方面が好調であったことに加え、サミットの決定で注目を浴びた伊勢志摩も好調であった。引き続き、関西、南紀、中国四国、九州方面は好調を維持している。

ホリデイは、取扱額で前年比95.4%と前年を下回ったが、方面別取扱人数の状況では、ハワイ、ミクロネシアが大幅に前年を超え、全方面合計では前年比114.6%と大きく上回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、イスラム国やエボラ出血熱など様々な外的要因はあったものの、クルーズ旅行やアラスカ、中国方面が好調であり、取扱額で前年比101.9%と前年を上回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、箱根山噴火警戒や台風11号、12号の影響はあったものの、北陸など話題の観光素材を活かした商品が引き続き好調であり、同104.4%と前年を上回った。

バス旅行部門は、浅間山や箱根山噴火警戒や台風11号、12号影響など外的要因の影響を大きく受け、同82.6%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は、ひとり旅やカルチャー旅行は好調であったが、登山やハイキングなどのスポーツ旅行が台風の影響を受け苦戦し、同99.0%と前年を下回った。

以上